

研究課題番号	S-16-1
研究課題名	全体の統括と消費と生産の関連性を強化した政策デザインによる温室効果ガス排出抑制と資源循環方策
研究実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度
研究機関名	東京大学
研究代表者名	平尾 雅彦

1. 委員の指摘及び提言概要

先進国が行ってきた大量生産・大量消費の時代から、途上国も含めて、今後の途上国の発展も踏まえた、「地球1個分の生活」に対するフレームは提示して頂いた。今後このフレームに沿ってSCPの議論が進むことを期待する。個別課題では良い成果を挙げていると評価する。一方で、個別課題が、EnBPMの中でどう位置付けられていて、EnBPMフレーミング構築にどう貢献しているのかの説明が各課題で記述されていると良かった。これまでの「良いものをつくれれば売れる、消費者に満足してもらえる」という生産者側の一方通行的視点を大きく変えて、消費の側から生産のあり方を大きく見直すものである。4つのサブテーマは、それぞれ重要な課題を扱っており、良い成果を上げていると評価出来る。ただ、アジアのコンテキストにおいては、サプライチェーンの中で各国が果たしている役割をより細かく分析する必要があったように感じられる。

2. 採点結果

評価ランク：A